

# 今後の障害者スポーツ への提言

当事者の立場から

竹島 春美

# 初めてのデフリンピック



# 日本の国旗がちょっと変？



# 一般の大会で起こったこと

- 一人で試合をしたこと。  
(高校3年の全国高校総体)
- 自分でカウントを数えながら試合をしたこと。  
(実業団卓球部時代)



# 入場券の争奪戦

## 悲劇：最後の舞台

竹島選手



竹島春美選手

こちらに来てからの調子も申し分なく、いい条件で三回戦に臨めるはずだった。

状況を再現する――。状況が再現する――。係に先導されてコートに入った竹島選手。何か落ち着かない。ゲーム前のラリー練習の間にも別コートや二階観覧席にせわしげに目をやっては首ばかり振っている。岡崎光雄監督を探している。いつもコート・コーチに入る岡崎監督が、どうしたことがあるのか。

竹島春美と岡崎光雄先生。選手と監督という、ただそれだけの関係ではない。ハンディキャップを背負う竹島選手にとって、岡崎先生は、彼女の手であり、足であり、またある意味では頭脳でもあった。二人の六年間の二人三脚があった。初めて本年度県下ナンバー

ワン・竹島春美が生まれた。その二人三脚のヒモが切れた。いまとなつては悔いも残るが、このヒナドリはいままで一人で飛んだ経験がない。

ゲームが始まる。ボールの選択に際しても動転してしまっている彼女は、相手に自分の意思を伝える方法も忘れてしまっている。カウントも頭に入っていない状態で、サーブチェンジにも気づかない。いたたまれなくなった記者が職責をわきまえず「がんばれ」とコートサイドから声援を送るが、届かない。

そんな彼女に、事情を知るはずもない相手選手の観覧席応援団からの喚声が雨、あられのように降ってくる。もうゲームなんか投げ出して逃げ帰ってしまいたいといった表情の竹島選手。決して勝て

ぬ相手ではなかったが、こちらがこんな状態だからまるで試合にならない。岡崎監督が駆けつけたときは第二セットもすでに後半。ゲームの大勢は決まっていた。

岡崎監督からこのアシデントのいきさつを聞こう。二人で二階席でゲーム開始を待っていたところ、コート変更をするというアナウンスがあったように思いましたので（このとき会場は男子団体決勝戦の大詰めと騒然とした状況）、進行係に確認のために席をはずしました。変更の事実はないというので帰ってみると彼女がいない。いま彼女に聞くと、私が席をはずしたところへ、試合だと招集係が来て連れて行かれたとこうです。もちろん長時間、コートが変更されてです。

この日のためにハンディキャップを押してがんばって来た師弟。汗と涙の花を咲かすべきこの最後の華やかな舞台にきての、あまりにも苦い、逆転の涙だ。

岡崎先生は彼女をしかった。「どうして事情を伝えて私が帰るまで待つてもらうようにならなかったのか。その程度の意思の伝達ができるだけの訓練を君はこなしてきたはずだ」と。だが、事情を考え合えずと彼女はかたを責めることはできない。彼女も岡崎先生も結果的には大変な失敗を犯してしまったということだろうが、これについて記者にもコメントする資格はない。ただ無念さを押し殺して決して泣こうとはしなかった彼女。彼女がゲームに勝つ喜び以上のものを学んでくれたであろうことが、あくまでも泣くまいと必死でこらえる彼女の表情から確信された。

### 卓球

#### 横山(まほ)ベス ト16に進出

▽女子団体決勝 (新庄市体育館)

都城商 4(単3-0) 望月 (宮崎) 複1-0 (長野) (都城商は初優勝)

▽女子シングルス2回戦  
横山 2(21) 21(15) 15(22) 0 東条 (群馬) 桐丘  
竹島 2(21) 11(21) 21(12) 1 大野 (埼玉) 星野  
高知 2(21) 11(21) 21(12) 1 星野 (埼玉) 星野

▽3回戦  
横山 2(21) 11(21) 21(12) 1 東条 (群馬) 桐丘

山 下 (福岡) 2(21) 21(11) 11(17) 0 竹島 (福岡) 2(21) 21(11) 11(17) 0 竹島

▽4回戦  
横山 2(21) 21(12) 10(14) 26(26) 1 (新潟) 新潟 (青森) 複1-0 (埼玉) 埼玉 (三本木は初優勝)

▽女子ダブルス準決勝  
漆山 尾下 2(21) 22(15) 20(20) 0 古大 (宮崎) 漆山 (福岡) 尾下 (宮崎) 柳川 (福岡) 柳川 (福岡)

▽女子ダブルス準決勝  
岩秋 和田 2(21) 17(21) 9(21) 8 川西 (大阪) 岩秋 (長野) 和田 (大阪) 望月 (大阪) 大谷 (大阪)

▽決勝  
漆山 尾下 2(21) 18(21) 10(21) 14(14) 1 岩秋 (大阪) 田和 (大阪)

▽男子団体決勝  
三本木 4(単3-3) 熊谷 (青森) 複1-0 (埼玉) 埼玉 (三本木は初優勝)

▽男子ダブルス3回戦  
藤塚 沢 2(21) 21(11) 10(10) 0 片岡 (高知) 藤塚 (高知) 沢 (高知) 青森 (高知) 三本木 (高知)

▽準決勝  
藤塚 沢 2(21) 21(11) 15(13) 0 竹之内 (埼玉) 藤塚 (埼玉) 沢 (埼玉) 若藤 (埼玉) 沢 (埼玉) 熊谷 (埼玉)

▽決勝  
兵山 藤崎 2(21) 21(11) 16(14) 21(21) 1 藤崎 (京都) 兵山 (京都) 相模工 (京都) 大付 (京都)

▽決勝  
兵山 藤崎 2(21) 21(11) 15(15) 21(21) 1 若藤 (京都) 沢塚 (京都)

# 聞こえる人と同じ条件に

耳で球質を聞き分けるのは無理。0,0何秒の差を埋めることは自分たちには到底できない。

だけれど、試合の呼び出し放送、試合中などの情報保障があれば、聞こえる人たちと同じスタートラインに立てるといつも思っていた。